

経営比較分析表（令和4年度決算）

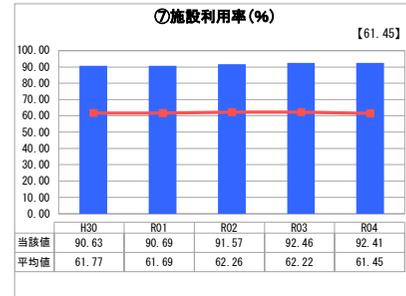
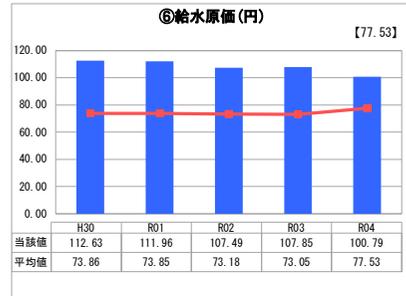
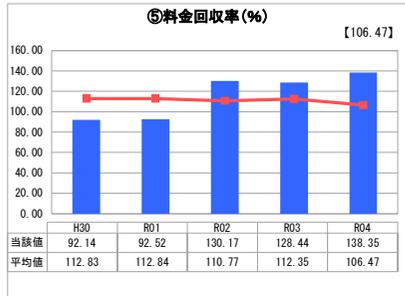
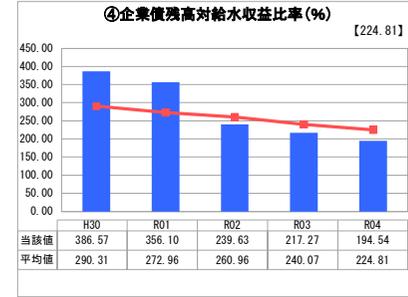
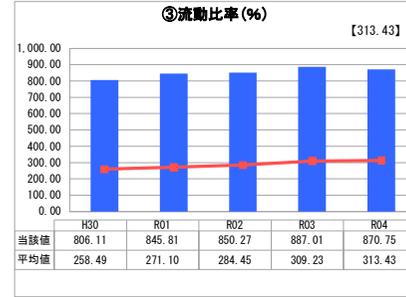
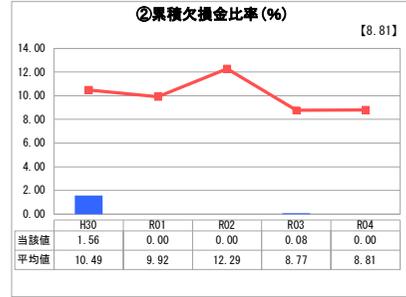
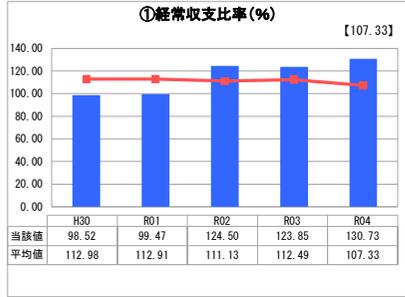
熊本県 上天草・宇城水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	88.53	36.49	0	

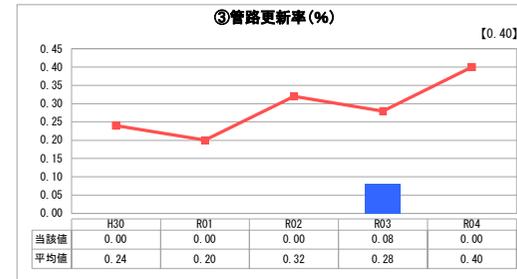
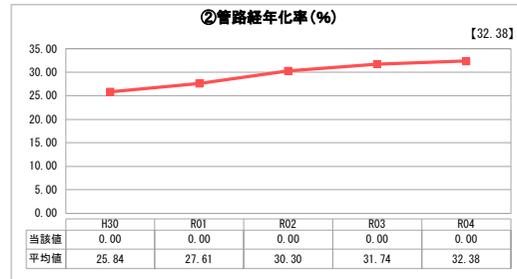
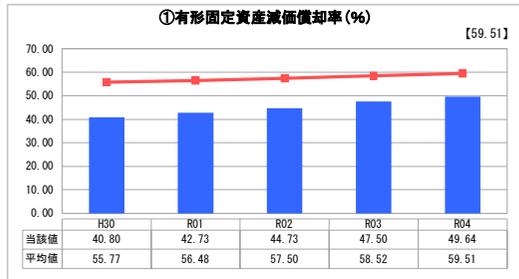
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
70,200	285.92	245.52

■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
令和2年度の料金改定により、経常収支比率は100%超となっているため、健全な経営を維持できている。
- ②累積欠損金比率
令和3年度に若干発生しているが、会計システムの導入に伴う減価償却資産の見直しで過年度損益修正損（現金支払いを伴わない費用）が発生したものの、減少傾向にある。
- ③流動比率
令和4年度末で870%であり健全な状況にある。
- ④企業債残高対給水収益比率
供用開始以降、企業債の発行を抑制しているため、減少傾向にある。
- ⑤料金回収率
令和2年度の料金改定以降、100%を上回っており、今後の更新投資等の財源として確保していく。
- ⑥給水原価
令和2年度の料金改定により、それまで続いていた原価割れ状態を解消できている。
なお、類似団体平均を上回っているが、事業環境が異なるため、単純比較できない。
- ⑦施設利用率
責任水量制を採用しているため、平均を大きく上回って稼働している。
- ⑧有収率
類似団体平均を下回っているものの、100%に近い水準で推移している。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
当企業団は平成16年に供用開始のため、建物・管路に関して耐用年数を超えるものはないが、機械や電気・計装設備の一部は更新期を迎えているため、計画的に更新している。
- ②管路経年化率
①と同様の理由で耐用年数を超える管路はない。
- ③管路更新率
令和3年度は道路工事に伴う送水管の布設替を実施した。

全体総括

令和2年度の料金改定により、健全な経営を維持できている。
今後、機械や電気・計装設備の更新や長寿命化を図るとともに、更新投資等の財源確保を行っていく必要がある。
また、経営戦略の見直しを適時行い、健全な経営を継続していく。